学校の創立

わが校，朱雀第二小学校は丸太町御前角，京都市中京区西ノ京左馬寮町にある。遡ること 1300 年前，この場所は平安京の中心地「平安宮」の西限に位置し，詳細にみれば国家的には迎賓館にあたる豊楽殿から至近にあり，当時の左馬寮跡・藻壁門跡に立地している。このように本校区一帯は平安京の朱雀大路の西，国の中枢地であったが，時代とともに繁栄は次第に東偏し，やがて春風秋雨幾百年，朱雀野一帯は原生化し都の様相は消失していったのである。

近年，明治の中ごろになっても，田畑の間に民家が点在する状況にあった。明治 2 年には京都市内では多くの番組小学校がつくられるようになったが，朱雀野においては，人口が甚だ少なく近隣の出水小，仁和小などへ通学したり，西院村との間に学校組合を設けたりして児童の教育にあたってきた。しかしながら，明治の後期には都市発展が著しく，就学児童が 280 名を数える増加により，ついに明治 37 年 4 月朱雀野尋常小学校（現在の朱雀第一小学校）の設置をみたのである。

明治 45 年朱雀野第二尋常小学校

以来，年々学齢児童が増加し 1500名を数えたため，京都府葛野郡朱雀野村左馬寮二番地に経費約三万円を投じて田畑を買いあげて小学校を新設したのである。これが現在の朱二校である。明治 45 年 4 月 1 日，朱雀野第二尋常小学校として開校した。校区を御池通り以北とした。

開校当初の学校は，校地 1178 坪，新築費 2 万 8290 円を費やし，新校舎は木造二階建，教室数 12，雨天体操場 88 坪，屋外体操場 670 坪という規模であった。六学年八学級から成り立ち児童総数 469 名（男 263，女 206）教員数は 9 名。男女混合のクラスの形で，1 学級在籍数は 52～73 名の人数であった。初代校長は猿橋幾蔵氏であった。（同年末，戸数 3422，人口 14,260 人，就学児童数 2108 人）

大正 2 年　11 月には校舎新築落成式典を盛大に行ったとある。学校沿革史によれば，来賓に京都府知事をはじめ，200 名参加のもと，式は「君が代」唱歌に始まり，式の終盤には落成式の歌曲を全員で歌ったとある。

「またも新たに朱雀野の教えの庭は開けたり　　われらは日々にかよひきて　いそしみつまむ　まなびぐさ」（一番）　　　三番迄歌詞あり

朱雀野地域の二つ目の学校の誕生で地域の人々の喜びは大変大きかった。

大正 3 年に学校に電話が設置され，次に水道も取り付けされて，学校としての機能も整備されていく。また，本校では大正年間の学校行事としての遠足は開校当初から実施していたが，なかでも大正 4 年からは修学旅行として 6 学年児童が伊勢へ往復日数 2 日で行われた。また同年，秋季運動会を初めて実施した。当時の教授内容は「修身」「国語」「算術」「日本歴史」運動具として水平棒・肋木も取り入れられた「体操」，「裁縫」「唱歌」「手工」「理科」が行われていた。また，当時から教員は毎週 1 回実施授業批評会を行い，教授法研究として研修を行っていたとある。「授業で子どもを育てる」指導法の研鑽に力を注ぐ本校教育の伝統を感じることができる。家庭とのつながりも大切にして，現在の家庭訪問の形も実施されていた。改めて，この時代からの教育のしくみが，現在につながっていることがわかる。

ついで，大正７年４月，本学区は葛野郡朱雀野村から京都市に編入。校名を朱雀野第二尋常小学校から豊楽尋常小学校と改称した。(同じく朱雀第一は壬生尋常小学校と改称）校名は平安京豊楽殿からの由来である。翌年８年には松原尋常小学校（現在の朱雀第三小学校）が開校し四条通り以南の児童を襲用した。壬生・豊楽・松原の３つの尋常小学校ができたのである。さらに大正 10 年以後壬生・松原の両校の改築整備を行い，完成を機に大正 12 年には，三ヵ校の校名を改称し，本校は朱雀第二尋常小学校とした。これが現在のナンバーリング校の起源である。このころ本学区では児童数が激増著しく，徐々に校舎改築して，大正 10 年児童数が開校 10 年目で当初の 2 倍の 929 人，開校 15 年目で 1692 人となったのである。

昭和２年：全校児童写真

ついで昭和に入り，昭和２年，収容力不足改善のため，また大規模な校舎増築・改築を行った。この年，実に在籍児童数 1881 人，職員数 35 人，学級数 31・夜間１となり，当時 1 教室は平均 60 人がひしめきあって学んでいたのである。同年，新校舎落成式」を行った。(全敷地 2385 坪，運動場 1000 坪）落成式歌曲も作詞・作曲され歌われたという。なお，当時の学校要覧が現存し，それによると，時代の要請と在籍数の多さなどの本校実態もあり，教育の重点は体育教育を重視したといわれている。

昭和２年：運動会

同年，高等科新設し，朱雀第二尋常高等小学校と名称を変えていった。

昭和４年には中京区が誕生するのであるが，この年から昭和 12 年頃まで，児童数増加で朱雀校区には続々と小学校ができてくる。同時に校舎が不足し二部制授業が実施される。同４年には本校校区より，新設された朱雀第四尋常小に一部編入，同７年には新設された朱雀第六に一部を分割する。さらに，昭和 12 年には新設朱雀朱八が設立され，朱八校に一部を編入する。本校自身も，昭和 11 年には鉄筋 3 階建ての校舎が建てられて施設も充実し，高等科も含めて 1782 人の全校生を数えるのである。この間，昭和 5 年には現在の町別児童会ができる。学年別文集の発行，校内音楽会，読方，算術も定期的に共同考査を行ったとある。昭和６年には珠算や書きとりの時間を特設した。この時代には珠算大会・剣道大会など対外的な試合がなされるようになった。さらに保護者参観日を月二回行うようになった。非常時訓練、書き方・図画・手芸との展覧会など教育活動が豊かに展開されていることを知ることができる。ついで昭和 9 年には初めての学校だよりの発行をみた。昭和 14 年当時の学校日誌から，当時遅刻する児童が多くなったため学校が調査するなど当時の学校の様子を知ることができる。昭和 15 年には，当時の辻本校長筆の修文錬武の碑が建てられた。北野神社参拝，月末大掃除，書き取り一斉考査，学芸会（年 2 回）秋季運動会，2 回の遠足，展覧会，運動会は春秋季 2 回，参宮旅行は 6 年生。その他，現在でも歌う機会のある「京都市歌」を朝会時に斉唱などが始まったのである。

昭和 16 年，戦争により国民生活が苦しくなる時代である。国民学校令に従い，校名も京都市立朱雀第二国民学校と改称した。修練室が設置され，教科の統合再編成され新たに国民科（修身・国語・国史・地理），理数科（算数・理科），体錬科（武道・体育），芸能科（音楽・習字・図画・工作・裁縫〈女子〉）が設けられた。さらに，戦中の学校日誌の校長訓話から戦争の影が日々濃くなる様子がうかがえるのである。またこの年，朱雀第二教育後援会，朱雀第二国民学校保護者会が創設され，学校と保護者との連携が図られていったのである。昭和 17 年暮れには円町から上賀茂への強歩会の実施，昭和 18 年には運動場東南隅に土俵場設置。同年待避所を設置するなど戦争が子どものまわりにも迫ってきた時代であった。昭和 19 年 4 月には給食設備工事の着工をみたが，給食開始は昭和 26 年 1 月からである。昭和 20 年，太平洋戦争激化のため京都市内も戦争の影響を受け，学童集団疎開が現在の綾部市十倉である何鹿郡口・中・奥の 3 つの上林国民学校へ行われた。同年 3 月と 8 月，2 回にわたり合わせて 207 名の子どもたちが親元を離れ，9 名の教員の指導のもとお寺の寮で生活した。復帰（ひきあげ）は秋の 10 月 17 日であった。学校には集団疎開の公的な記録はないが，その時の子どもたちの思いや苦労話，困難な様子などが戦後 40 年後の疎開地再訪を機に作られた手作り文集「山家のこと」，平成 6 年京都新聞掲載記事「防人の詩」のなかで知ることができる。

戦後は，昭和 22 年 4 月教育基本法，学校教育法が施行されるに伴い，京都市立朱雀第二小学校と改称し児童数 982 名で新たに出発した。戦後の新しい教育が進められ，小学校 6 年中学校 3 年の義務教育の制定や男女共学そして，「修身」「歴史・地理」が廃止され，新たに「社会科」「自由研究」の教科が設けられた。同年，5 月には北野中学校を設立，同じく本校場所には朱雀第二中学校を併設する。その後，同中学校は二条中学校に合併して年度末に廃止された。翌年には西ノ京中学校として独立した中学校となる。翌昭和 23 年，区域変更により朱四，朱八より一部児童の受入をする。児童総数 1172 名となり，この時点で現在の校区の形になったのである。昭和 27 年には創立四十周年祝賀式を挙行し新たな教育の確認をみた。

昭和 30 年には，戦後のピーク，児童数が増加して 1532 人を数えるのである。

30 年代後半，昭和 36 年から 39 年にかけて立て続けに，新校舎（北校舎建設）運動場改修講堂改修，給食室整備。特に昭和 36 年には新校舎完成とともに，創立五十周年祝賀式を挙行し新旗をつくるなど，半世紀の朱二校を地域全体で盛大に祝ったのである。

昭和 40 年代には児童数も次第に，減り昭和 40 年には 683 人となる。臨海学習が若狭和田で行われ体験学習が取り入れられるようになる時代である。昭和 44 年には待ち望んだプールが完成し，泳ぐ喜びを感受することができるのである。ついで，学校の発展を祈念し創立 55 周年，創立 60 周年記念式典を挙行し，翌年 48 年の南校舎整備で全館が鉄筋校舎になり地域の学校が充実する時期である。

昭和 50 年代に入り，昭和 51 年の校内緑化のため 1000 本植樹。52 年には朱二校方式のスポーツ教室が開設され，現在のスポーツが盛んな朱二校の伝統をつくるもとになった。昭和 58 年には中国教育視察団来校もあり本校の教育力がますます充実する時期であった。

平成に入り少子化により本校の児童数は減少してくるのである。平成元年は児童数 339 人である。同 3 年には創立 80 周年を迎え，特に平成 4 年から始まった校舎新築は地域住民の強い願いと地元からの支援のもと，その素晴らしい学び舎はついに平成 6 年に完成したのである。この新築記念式典挙行が盛大に行われ，さらには平成 7 年運動場全面改修とともに，誇れる施

設として，地域住民のシンボルとし生涯学習の場として現在に至り広く活用されている。

平成 10 年以後，京都市教育委員会指定情報教育研究発表会，京都市教育委員会調査研究校指定「総合的な学習の時間」研究発表会など，教育実践の拠点校として教育活動を通して地域の子どもたちの学びの場と質を充実させてきたことは本校を特徴づけるものとなっている。

平成13年には創立90周年式典挙行し，学校と地域との学びの連携をより強く打ち出し，地域ボランティアの推進がより活性化され，地域の教育力の導入・活用が強力に推進された。

平成 14 年は週５日制の導入。学習指導要領の改定により教育改革としてのゆとり教育が開始された年である。総合的な学習の時間の導入や目標準拠の絶対評価の導入などが開始された時期である。さらに平成16年には二期制を導入し，平成17年度のＡＬＴによる英語活動の開始，18・19年度みやこ創生事業取組など教育のしくみの充実をさらに見る時期であった。さらには，ＰＴＡ主催の立ち番取組が地域と一体化した取組を実施し展開され，ついで校区に朱二安心安全みまもりたいが結成され，ＰＴＡ，各種団体との子どもを核とした安心安全取組がより一層充実されることになった。

平成 19 年には，朱二小学校運営協議会を設立して，朱二の伝統である子どもを地域ぐるみで育てるとの考えのもと学校・家庭・地域それぞれ個々の教育力を発揮し，地域の子どもの学びと育ちを協働して取り組むシステムの構築を見たのである。

平成 20 年に入ってからは，子ども・保護者・地域から愛される学校づくりが学校経営の中心課題と位置付け，一人一人を徹底的に大切にする教育実践をスローガンにしている。いきいき理科推進校としての教育環境の整備，総合育成支援員の配置などの環境整備。よさや可能性を高め育てる教育の創造を希求して，算数科を切り口に研究を開始する。基礎・基本の徹底，学習習慣の確立，考える力の育成・言語の能力の育成など確かな学力への充実などの学力面の充実。部活動の充実，各種ふれあい推進事業，みやこかがやき事業などを通しての豊かな感性とたくましい心身を育てることを目指しての積極的な取組。また，同年８月には西ノ京中学ブロックの小中一貫教育推進校に指定を受け，中学校との連携をより一層活性化して相互の刺激のもと教育力向上を目指している。さらにはその年度にＰＴＡの懸案事項,「100 周年記念事業」が学校・ＰＴＡ・自治連合会の三者の共同のもとに朱二小 100 周年実行委員会を立ち上げることができたことは，今後の地域の学校づくりを推進する上で，非常に心強いものとなった。

平成21年には花脊山の家への４泊５日の長期宿泊学習，学校独自の朱二検定を実施。

平成 22 年 11 月 11 日撮影

続く平成 22 年の秋の素晴らしい天候のもと，記念事業委員会の計画の一つである 10 年ぶりの航空写真の撮影が行われたことは大変喜ばしいことである。

いよいよ平成 23 年は創立 100 周年を迎える学校となる。期しくも，新学習指導要領完全実施の年でもある。

子どもたちの将来を見据え，子どもたちの主体性を育み，思考力・判断力・表現力を育てていく。現在，本校は心も体も健康で，知徳体バランスのとれた心優しい人間性豊かな子どもを育成していくという決意を新たにして，地域で地域の子どもは育てるというよき伝統に支えられ，「夢と希望を求め未来を拓く子ども」をスローガンにして可能性に挑戦する学校として力強く発展しようとしているのである。